

令和4年 2月 吉日

「子ども家庭支援センターみらい」保護者各位

子ども家庭支援センターみらい

園長 大迫 より子

## 「児童発達支援事業所自己評価」（保護者向け）の結果について（報告）

向春の候、皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所に通園している保護者のみなさまのご協力のもと、保護者による自己評価を過日実施いたしました。

結果を基に事業所の取り組みを見直し、今後の在り方を考えることができました。

保護者からの評価につきましては、多くの項目で概ね高い評価をいただきました。日頃から、親の会と共に運営面、実践面を共有しながら、子どもたちのよりよい発達の間、社会づくりに取り組んできている現状が評価へとつながっていると考えられます。

今後周知が必要な項目として、「9. 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか」に「どちらともいえない」「わからない」と答えている方がいらっしゃいました。本事業所は主に保育所、認定こども園、幼稚園との併行通園児の療育活動を実施しており、現在も9割の園児が併行通園を行っています。そのため、日常的に地域の園に通園している現状があることから、事業所の取り組みとしては、同法人内にある保育園との交流のみとなっています（但し、子どもの実態に応じて交流の必要性がある場合は併行通園先との交流を実施しています）。

また、「わからない」と答えた方がいる項目がいくつかありました。今後は、年間を通して、事業所の取り組みについての説明を複数回実施していく中で、理解を得られるように努めていきます。

今後も、「発達支援」「家族支援」「地域支援」をしっかりと担っていく事業所であり続けるために、事業所への要望や意見等を寄せていただけると有難いです。

これからもどうぞ宜しくお願い致します。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

【児童発達支援】

公表: 令和4年 2月14日

事業所名: 子ども家庭支援センターみらい

保護者等数(児童数) 18(19) 回収数 17 割合 94.4%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17					基準以上のスペースを確保して活動をしています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	16	1				法令に従った職員数を配置しています。専門性を高めていけるように、学習や研究に取り組んでいます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	16	1			行動することに配慮してある。	引き続き、子どもの実態に応じた対応を心がけていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	16	1			床の汚れが気になる。	毎日清掃をしていますが、落としきれない汚れがあるため、不快に感じることがあると思います。気になる汚れが少しでも改善するように努めていきます。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画ⅱが作成されているか	16	1				子どもと保護者のニーズや課題が反映した計画作成に努めていきます。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	16			1		子どもの支援に必要な項目を掲載し、できるだけわかりやすく、具体的な支援内容を心がけています。個別面談の際に詳しくお伝えしていきます。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	17					今後も児童発達支援管理責任者を中心に、計画に沿った支援を行っていきます。
	8 活動プログラムⅲが固定化しないよう工夫されているか	14	2		1		子どもの発達に応じた活動づくりを心がけ、一つ一つの活動の意味や成果についても、できるだけわかりやすく発信していきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	10	4		3	コロナでなかなか交流する機会がない。コロナのためどちらともいえない。コロナで難しいが交流の機会が作ってもらえていてありがたい。	併行通園児が9割をしめる事業所のため、日常的に活動している実態があります。園としてはコロナの状況、子どもたちの実態に応じて対応していきます。
保護者 への 説明 等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16	1				できるだけわかりやすい説明を心がけていきます。説明後もわからないことがあれば気軽に聞きいただけると有難いです。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	16	1			計画作成時に説明がきちんとある。	できるだけわかりやすく支援内容の説明を心がけています。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングⅳ等)が行われているか	15	1		1	各家庭に寄り添ったきめ細かい支援が行われている。	いつも都合を調整し、多くの方に参加して頂き有難いです。共に学び合いながら少しでも子育てに生かしていけるように取り組んでいきます。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	15	2			色々な問題の対処に際し、声掛けの仕方を教えてもらったアドバイザーがもらえている。	今後も療育での姿、家庭での姿、各幼稚園保育園での姿、子どもたちの実態をしっかりと把握し、共通理解を図り、よりよい発達支援へつなげていきます。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	16	1			だいたいのごことはこちらからのこと。療育中の様子。	定期的な面談以外にも、気軽に相談できる場、人でありたいと思っています。今年度は電話相談も多く、色んなことを気軽に聞いてくれて嬉しく思っています。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	16	1			コロナで開催が少なくなりましたが協力をみながら活動している。	コロナのため、今年度は回数が制限されましたが、今後もつながりを大切にしたい親の会の取り組みがすすんでいくように支援、連携に努めていきます。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	17					今後も、相談等について、できるだけ迅速に対応していきます。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	16				1	よりよい関係を構築しながら、互いにわかりあいが、情報伝達を心がけていきます。
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	16	1				今後もホームページでの発信。クラス便り、親の会運営委員会等でわかりやすく情報提供していきます。
19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	15				2	引き続き、十分注意して取り扱います。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
非常時 等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	14	2		1	避難訓練や引き渡し訓練等を実施してもらえます。子どもにも説明してくれる。	各マニュアルは作成し、掲示しています。今後できるだけ様々な状況を想定した訓練を実施し、備えていきたいと考えています。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	1		1	避難訓練や引き渡し訓練等を実施してもらえます。子どもにも説明してくれる。	法令に従って訓練を開催しています。今後も子どもたちにわかりやすい訓練を追求していきたいと考えています。
満足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	17				すごく楽しみにしている。親も子どもとても満足して通っています。支援の先生方にはとても感謝しています。	子どもたちにとって安心できる場、楽しい場であり続けていけるように、子どもの願いを大切に、取り組みを進めていきます。
	23	事業所の支援に満足しているか	17				丁寧な支援をいただいている。とても満足しています。	今後も事業所の取り組みについて丁寧に伝えていくとともに、よりよい場となるよう、親の会・地域との連携（意見を聞き）しながら、発展させていきます。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

令和4年 2月 吉日

関係者各位

子ども家庭支援センターみらい  
園長 大迫 より子

## 「児童発達支援事業所自己評価」（事業所向け）の結果について（報告）

向春の候、皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所における「児童発達支援事業所自己評価」について、自己評価を過日実施いたしました。

事業所における自己評価につきましては、昨年同様に、非常時の対応「4.7. どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している」の項目「いいえ」について、本事業所としては、身体拘束を行うことはありませんが、今後身体拘束が必要となる場合は、検討を行った末に支援計画に記載し、保護者の了解を得て支援を行っていきます。また、どのようなことが身体拘束にあたるのかは毎年実施している職員研修（虐待や人権についての研修）の中に取り入れ、職員一人一人の理解の向上に努めています。

今回の自己評価をもとに、改めて事業所の取り組みを職員全員で問い直しました。もっとよりよい方法はないか、工夫できることはないか等、率直に意見を出し合う中で見えてきたこと、また、今後も大切にしていくこと（守り続けていくこと）を確認し合うことができました。

児童発達支援の役割としての「発達支援」「家族支援」「地域支援」がより良く発展していけるように、一つ一つ向き合い、常に学び合い、つながりを大事にしながら、取り組みを進めていきたいと思えます。

今後も、皆様のご意見、ご協力を頂きながら、信頼される事業所であり続けられるよう努めてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表: 令和4年 2月14日

事業所名: 子ども家庭支援センターみらい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		法令に従って十分なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		法令に従った職員数を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		子どもの実態に応じてわかりやすい環境づくりを心がけ、子どもにとって、過ごしやすい導線を保障している。室内はバリアフリー、階段は手すりあり。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		毎日の清掃、消毒、定期的な安全点検を実施しており、安心、安全な環境づくりに努めている。活動に応じた空間を確保することができるため、実態に即した環境を保障することができる。	床の擦れた後が、汚れているように見えるため、不快感を与えないための工夫が必要。事業所職員での清掃や改善が難しい場合は業者に相談し、できることを取り組む。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		できるだけ時間確保し、共通理解を図りながら、職員全体で進めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		評価表、日常的な親の会との運営委員会、意見箱、アンケート等での意見を受けとめ、すぐに対応し、報告する流れをつくっている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		公開している。内容については保護者に周知していくよう努めている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		法人で定期的に行い、必要に応じて改善につなげていくよう努めている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		法人研修、外部研修(今年度はリモート研修が多い)の年間計画を立て実施している。研修についてのアンケートを取りながら、学びにつなげている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		児発管を中心に、相談支援員、専門職、担当保育士等、発達課題を分析しながら計画作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		子どもの支援に必要な項目になっており、専門用語ではなく、できるだけわかりやすく、具体的な支援内容となるように心がけている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		支援計画に沿った支援についての共通理解に努め、定期的に見発管を中心に評価し、支援のあり方を協議している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		年間、月案、日案、行事等、担当職員を中心にしながらも、チームで検討して作成している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		年間計画作成の中で、療育内容を検討しており、季節の行事、子どもの実態に応じた活動内容を工夫している。豊かな発達につながる活動をつくっている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		基本的には集団活動をベースにし、個々の発達課題に即した個別の支援を行っている集団活動、個別活動の発達課題は支援計画に反映している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		支援開始前に必ず打ち合わせを行っている(プログラムは早目に配布し、各自自分の役割や支援について考えて打ち合わせにのぞんでいる)。	
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		支援終了後に反省会を行っているが、勤務時間上、参加できない職員がいる場合は文書でのやりとりを行っている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		記録が出来事だけの記録とならないよう、支援のポイントや成果や課題が明確に記載されるように努めている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		支援計画にそって、現状を見ていく中で、見直しの必要性を問いながら進めている。	
関係機関や保護者との連携関係	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的に児発管が出席しているが、ケースに応じてはクラス担当職員も同席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		必要な連携は事業所から関係機関に働きかけ、ケース会議の実施や事業所訪問等、共通理解を図りながらそれぞれの立場での支援に努めている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			該当児なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			該当児なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		入園前の体験活動、連携会議、日常的な電話でのやりとりの中で、子どもの実態把握を行い、支援について共通理解を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		各小学校へ情報提供を行い、その後、各学校へ訪問し、直接会って、担当者へ引き継ぎを行っている。移行後も見学や必要な連携に努めている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		研修会や公開療育等へ積極的に参加し、学びを深めている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		在籍児の9割が併行通園児のため、日常的に交流できている。法人内の保育園は行事を通して交流の場をつくっている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		参加できるよう努めている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		活動後の引き継ぎの際にできるだけ具体的に伝える様に心がけている。気になる場面があれば、その時に発達の状況等を伝え、共通理解に努めている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		定期的に学習会、交流会を実施している。実際に困っていることや具体的な対応について、集団で考え、日常の関わりにつなげていけるように努めている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時にできるだけわかりやすい説明を心がけている。契約後も日常的に質問に答えている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		支援内容、支援計画についての説明を行う時間を設定し、保護者からの同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		定期的な面談、保健師面談の中で様々な悩みを語る場をつくり、一緒に考え、解決へつなげていけるように努めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		ひとりぼっちの子育てにならないよう、親の会の活動をサポートし、事業所内だけでなく、県内の親の会、法人の家族連合会との連携を支援している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		相談や申し入れについては迅速に対応するように努めている。事業所内で解決できない場合は法人、関係機関、行政へつなぎ、できるだけ対応に遅れが生じないように努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		法人会報、事業所内おたより等、定期的に発信している。親の会運営委員会では毎月活動等について説明を行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		個人情報の取扱いは契約時に説明し、同意を得ている。取扱いについては十分に注意している。	
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		個々に応じて必要な支援を行い、よりよい関係を築きながら、必要な配慮や工夫を行っている。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		行事への招待、療育活動の中での関わり等、子どもたちが地域を感じ、見守ってくれる地域の人を感じていく機会を大事にしている。	今年度はコロナ過のため、例年に比べて交流する機会が減少したが、手紙や手作りタオルを配布していく中で、互いを感じる事ができた。新たなつながりもできたため、常に働きかけたい。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		各種マニュアルを作成している。特に大雨等の災害時の送迎について、保護者自身も送迎ルートの確認をしてもらい、訓練を実施した。	
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		年2回以上実施。日常の活動の中でも災害や避難について、考える機会や絵本や映像を見て、より理解を深めていく活動を実施している。	避難訓練に抵抗がある子、レインコートを着用できない子等、取り組み方の工夫で改善していくことができた。今後も子どもの実態に応じて、配慮や工夫を行い、いざという時に備えていきたい。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		契約時のアセスメント等の中で確認している。年2回の園内健診等でも確認し、必要に応じて医療との連携を図っている。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食物アレルギーについては医師の指示に基づき、保護者と確認し、対応している。不明確な場合は医療機関での検査を促している。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		朝の打ち合わせや毎月の会議の中でヒヤリハットについて報告し、全職員で共有している。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		定期的に研修を行っている。基礎的な学習、ケース検討等、早期発見や虐待防止、虐待を受けていた親についての学習を積み重ねている。	
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○	身体拘束は行うことはありません。今後、もしも身体拘束が必要なケースに直面した場合は、組織的に決定し、説明を行い、了解を得た上で支援計画に記載し、支援を行います。		

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)